
輝きという名の原っぱで

light

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輝きという名の原っぱで

【Nコード】

N9678S

【作者名】

light

【あらすじ】

とある日の昼下がりに、ミズゴロウ、ピカチュウ、シェイミは原っぱにピクニックにでかけます。

しかし、途中で……

(前書き)

前にナーフフィアという冒険小説をかいてましたアヤカです。

なんとなく投稿してみました。

きつとやさしすぎてぬるい！ということになっていいるまもしれませ
ん；

暇があったら短編をちょこちょこ投稿していきたいとかおもっています。

とある午後の昼下がりに。ぽかぽかと暖かな太陽がたっついていて、とっても晴れています。原っぱに生えている草は、誰かこないかなと太陽の光を気持ちよく感じながら待っていました。

しばらくしてミスゴロウの少年が現れました。少年は急ぎ足で、草をふんずけ原っぱの中央へと走り去っていきました。

「遅れてごめーん！」

ピカチュウとシェイミがそのミスゴロウの少年の声に振りかえります。ミスゴロウがにひきの所へ追いつきました。

「おそかったじゃない、ミウロ」シェイミの少女はちょっと不機嫌そうです。

「別にいいじゃん、ユー。さ、はやくピクニックに行こう！」
うずうずうきうきしているピカチュウの少年は、お弁当のはいったバスケットをゆらゆら揺らしています。

こうして三びきは、のんびりとした陽だまりの中、元気よく出発しました。

ピカチュウの少年がもったバスケットは右に左にみんなの歩きに合わせてゆらゆらゆれています。小鳥たちは、ピピピとさえずって空を舞いながらどこかへ飛んで行きました。その小鳥を追う風は暖かな空気をそよそよと運んで来ます。

「なあ、ユー、エル。この間見かけたポケモン、もしかしてミュウつていう伝説のポケモンと思っただけど」

「まさかあ〜！どうしてミュウが泊まっていた宿にいなきゃいけないのよ。ミウロ、あんた考え過ぎじゃない？ねえ、エル」

「うーん・・・、どっちとも言えないや。なんせ見てないしね」

「じゃあやつぱりいないわね」

「いや、いた！」

「いない！」

「いたあ！」

ユーと呼ばれたシェイミの少女、そしてエルと呼ばれたピカチュウの少年、ミウロと呼ばれたミスゴロウの少年は、こんなふう賑やかにいろんな話をしながら、ピクニックの目的地、大きな木の元へ向っていました。

原っぱの真ん中ほどまで来たとき、エルがゆらゆら揺らしていたバスケットが、ふいに勢い余ってぽーんと空高く舞い上がったのです。

「わあっ」

エルは驚いて、落ちてきそうなバスケットをキャッチしようと、両手を広げました。

「なにやってんだっ」

ミウロがバスケットを見上げて言いました。

「あー！うちの作った弁当が〜！！」

「「ええ！」」

バスケットの中身はユ一の作った弁当という事がわかり、ぞつとしてミウロとエルが少しだけバスケットから目をそらしました。

それがいけなかったのか、バスケットはだいぶ外れた所に落ちるとコロコロと、坂を転がっていくではありませんか。

「弁当がああ」ユ一は凄いスピードでバスケットを追いかけます。

「まってえー」

エルも必死に坂をおりていき、

「楽しい〜！！」

とコロコロ坂をでんぐりがえしで転がりながらミウロがおりていきました。

バスケットは、どんどんどんどん坂をくだっていきます。ユ一はこれでもかというほどの速さで追いかけます。

そして、バスケットは最後に段差をこしてやっととまってくれました。

「あーよかった」

一安心して、バスケットを手元によせると、ユーは笑顔になりました。

「や、やっと追い付いた。あっバスケット、とまってくれたんだあ」
下り坂が急で、滑ってきたエルもユーの手にあるバスケットを見て、表情をゆるめず。

と、上からミウロの声が振ってきました。

「のあああつ。ど、どけーーーーー」

二匹は、嫌だなど思いながら坂を見上げると

「「「わああああ」「」ミウロがエルとユーに突っ込んできたのです。どしいんとぶつかって土煙がもくもくと舞い上がりました。

「もう、なんなのよ」

煙を手で追いやりながらユーが不機嫌そうにミウロにそう言っていること

キラキラキラ

ささやき声のような不思議な声が聞こえました。

「ん？なんだろ」「？」「エル、ミウロがユーより少し遅れて後ろを振り返りました。

それから、その情景に言葉を奪われます。

三匹の前には、黄金に輝く原っぱが広がっていたのです。

空もいつのまにか、パステルカラーのやさしい色になり、水色とピンクがきれいに混ざったそんな、美しいものにへと変わっています。

あたたかな風に輝きをはなつ草花が笑う様にゆれて、小さなちようちよもひらひらと飛び交っています。

すべての草花がそれぞれの色をたまちながらも、黄金のやさしい色を発している。それは、まったく眩しいものではない、不思議な輝きでした。

エル、ミウロ、ユーはお互いに顔を見合わせると、くすりと小さく微笑みました。

「ここに来てよかったな！」

「うん」

「そうね」

ちようちよにまぎれていた妖精が、そんな三匹をみて空へ舞い上がりました。

やさしいやさしい春の午後の出来事。

輝きとくらしの原っぱで 完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9678s/>

輝きという名の原っぱで

2011年10月7日13時56分発行